

中満 泉 国連軍縮担当上級代表の発言

このような大会にご招待いただいたことに、心から感謝します。みなさんがこれほど大規模な会議をオンラインで組織されたことは、私たち全員にとって大きな意味があり、激励されます。出席できて非常に嬉しく思います。

核兵器廃絶をめざす署名がどれほど大きな数で集まっているかについてご報告を受けました。毎回、署名を受け取るとたびに、それは私のエネルギー源になっています。それが私を、核兵器廃絶という重要で困難な仕事に立ち向かい続けさせてくれているのです。

今日の COVID-19 の状況のもと、ニューヨークでみなさんに直接お会いして、署名を受け取ることができなくて大変残念です。しかし、秋の国連総会、第一委員会では必ずそうしたいと思っており、楽しみにしています。

国連の中では、この署名は核兵器廃絶の重要性を思い起こさせてくれる重要なものです。この課題は会議場をはるかに超えるもので、核兵器の残酷さ、その完全廃絶は、世界の市民にとってきわめて大きな課題であり、ご存じのように国連の最優先事項となっています。

この機会に、広島・長崎への原爆投下の筆舌に尽くしがたい惨禍を伝えて下さる被爆者の方々に賞賛をお送りします。私は被爆者の、みなさんの証言を直接聞くたびに、大変感動させられます。みなさんの証言は、文化や世代の違いを超えて非常に多くの人々を核兵器廃絶へと向かわせる、権威ある力を持っています。みなさんの核兵器廃絶の活動は、比類のない力を発揮しています。これまでに集められた素晴らしい数の署名は、みなさんの活動の影響力の大きさをはっきりと示しています。あらためて、みなさんの疲れを知らぬ努力に感謝を申し上げます。

残念ながら、被爆 75 周年を迎え、被爆者の平均年齢も上がっています。しかし、みなさんの声は小さくなってはいません。多くの人々、とりわけ若い世代に訴えを届けるみなさんの努力は素晴らしいものです。今日の会議でも、多くの若い人が耳をかたむけ、参加しています。それこそが私たちが必要としていることです。若い人たちが核兵器廃絶にむけた力になれるよう激励することは、みなさんのメッセージを将来の世代につなげ、そしてもちろん、最終的に核兵器のない世界を実現するために、重要なことです。

COVID-19 パンデミックによって、私たち全員が、不都合な真実ともいうべき事態に直面し、これまで想像もしなかったような破滅的状况が引き起こされる可能性が生まれています。このグローバルな危機は、すでに明らかなように、国境で防ぐことはできず、そのため集団的な対応が必要です。しかし私は、大きな困難をもたらしているこのパンデミックが、一方で、社会や組織や個人など私たち全員を団結させる可能性を生み出すことを期待しています。この危機を通じて連帯を築く中で、私たちは固定化した分断を乗り越え、困難であっても必要なその他の課題の解決にもとりくまなければなりません。とりわけ、緊急の目標である核兵器の廃絶において。

国連がテレワークに入って5週間以上になりますが、昨日（4月24日）、オンラインで発表するビデオ・メッセージを収録するために国連本部に行きました。これはNPT再検討会議の開会日となるはずだった今度の月曜日（4月27日）に発表されます。私の中で特に伝えたいメッセージは、締約国が、会議が延長された機会を利用して、それぞれの間にあるギャップを埋め、橋渡しをして、核軍縮を前進させる共通の基盤を見出す努力をしてほしいということです。世界中で緊張が高まり、軍備管理機構が残念ながら弱体化しつつある状況に直面するも、核軍縮での前進は、これまで以上に緊急に求められています。

被爆者は、核破壊の人間の顔を代表しています。みなさん方の努力は政策立案者たちに、核兵器のいかなる使用も、人間に未曾有の被害をもたらすことを教えてくれます。それゆえ私は、この署名をした一人ひとりに感謝を申し上げ、私たち共通の目標である核兵器のない世界を達成するために、全力を尽くすことをお誓いするものです。

国連軍縮課がウェブサイトに乗せたCOVID-19の影響についてのメッセージをすでにご覧になった方もいらっしゃると思います。その中で私たちが最も伝えたいメッセージは、安全保障の中心に人間を据えるべきだということです。COVID-19は、人類にそうせよと教えています。それは「核兵器のない世界」にむけたとりくみの中で、常に忘れてはならない中心テーマのひとつでもあるのです。

あらためて感謝を申し上げます。みなさんのこの大会が、私たちが共有する目標に向けて、より大きく、より力強い運動となることを期待しています。